

科目名 Course Name	家族論 Family Theory						
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	小竹仁美						
連絡先(質問等)	本館2F 研究室か、メールで対応。オフィスアワーは授業担当時間および学生相談時間以外。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1,DP2						
授業の概要と 到達目標	<p>社会の変化につれ家族の人間関係や家族のあり方は変容し、家族に関わる様々な問題がもたらされている。この科目では、私たちにとって最も身近なテーマの一つである家族について、人の発達を軸とした家族の発達過程、家族機能の変容、家族関係の病理と介入などを取り上げ、家族や家族を取り巻く現状を理解し、分析する能力の習得を図る。</p> <p>① 家族の発達過程を理解し、説明できるようにする。          ② 家族機能の変化とその関連要因について説明できるようにする。          ③ 家族関係をめぐる様々な問題と介入について実践的知識を得て、基本的対応行動をとれるようにする。</p>						
授業の方法	講義形式とディスカッションなどの参加型形式。						
学習成果	L01	家族と社会の関係を念頭に、社会問題に関心をもち考察することができる。					
	L02	家族関係の病理に関する知識をふまえ、家族が抱える現象を分析し、自らにできる行動をとろうとする態度を身につけることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック							
教科書/ 参考図書	毎回、資料を配布する。参考図書:新聞資料等。						
履修上の留意点 やルール等	●ディスカッション等に意欲的に参加すること。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回180分とする。						
担当教員の 実務経験	●実務経験(職種:臨床心理士 職歴 26 年、公認心理士 職歴 2 年)						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S 評価は、ディスカッション等で積極的に意見を述べるとともに、他のメンバーに配慮する態度や行動を十分に示していることである。20%の配点である。		20		
レポート/作品	單元ごとにレポート課題を出す。S 評価は、課題の目的を把握し、熟考し論理的構成で書かれていることである。50%に配点である。	10	40		
発表					
小テスト					
試験	論述問題を実施する。S 評価は、テーマの目的を把握し、事実に加え、自分の意見を論理的構成で書いていることである。30%の配点である。	10	20		
その他					
合 計		20	80		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス、家族とは何か、現代の家族をめぐる状況
	事前・事後学習	家族ライフサイクルを作成する
2	授業内容	無戸籍問題
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む
3	授業内容	良母幻想
	事前・事後学習	課題レポートに取り組み
4	授業内容	男性の育児
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む
5	授業内容	ジェンダー
	事前・事後学習	課題レポートに取り組む
6	授業内容	結婚と出産、離婚、女性と自立
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
7	授業内容	乳幼児をとりまく社会問題
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
8	授業内容	特別養子縁組、里親制度
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
9	授業内容	児童虐待問題
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
10	授業内容	犯罪や災害等の被害者や遺族の支援
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
11	授業内容	少年犯罪
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
12	授業内容	がん患者と家族
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
13	授業内容	若年性認知症と家族
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
14	授業内容	労働をめぐる課題
	事前・事後学習	課題レポートを作成する
15	授業内容	現代における生き方
	事前・事後学習	課題レポートを作成する